

めざすべき姿Ⅰ 一人ひとりの人権を尊重するまち  
基本目標1 お互いを尊重し合う意識の醸成

評価対象年度	総合評価	基本施策ごとの評価	
2024	C	I-1-1 男女平等参画に関する市民意識の向上	C
		I-1-2 多様性を尊重する意識の浸透	C
		I-1-3 心と体の健康支援	C
評価理由及び改善策等の提言			
<p>男女平等参画に関する市民意識の向上については、広報、ホームページ、SNS、リーフレット、イベントなど様々な情報ツールを活用することで、幅広い層に向けた継続的な意識啓発を行っていることは評価できる。引き続き、幅広い層に向けた意識啓発を行うため、市民ニーズを把握し、紙媒体や対面での情報発信も考慮しながらデジタル媒体も活用し、ターゲット層に合わせた方法や内容で継続的に情報発信していくことが重要である。また、情報発信の電子化に加えて、学校でのタブレット活用や、デジタルコンテンツを充実させ動画やクイズを取り入れるなど年齢を問わずアクセスしやすい工夫が必要である。</p> <p>多様性を尊重する意識の浸透については、ターゲット層に応じた方法で幅広い層に対する意識の浸透を図ることができている。職員研修では、グループワークを通じて多様性を自分ごととして捉える機会を提供している。この成果を小中学校にも広げ、教員や児童生徒に対する啓発活動を強化してほしい。</p> <p>心と体の健康支援については、大学での講演会や動画公開、がん検診の個別通知を通じて、若い世代の受診者数増加を図っている。また、「プレコンセプションケア」に関する情報の更新など、若い世代が自分たちの健康や生活に向き合うきっかけが作られている。今後も、心と体の健康に関する適切な情報を提供できる環境整備に努めてほしい。また、HIV・性感染症の社会的な流行状況等を捉え、若年層をターゲットとし、DXを活用した利便性の高い検査体制を検討してほしい。</p>			
その他委員コメント			
<p>○市民ニーズを把握するため、アンケートやワークショップを定期的に関催し、デジタルプラットフォームを活用したオンラインアンケートで意見収集してほしい。</p> <p>○どれだけ意識付けができたのか、どれだけ行動に結びついたのかというアウトカムを確認できるとよい。</p> <p>○発信された情報がどういった世代・属性の人にヒットしているのか、新たに興味関心を持ってくれた人がどれだけいたのかなどを確認、分析することも必要である。SNSでの情報発信については、その反応なども指標化できるとよい。</p> <p>○必要に応じて各部署が連携しながら取り組んでいるのがとても良い。</p> <p>○若年層や共働きなどメインターゲットを設定し、複数の情報ツールを組み合わせ情報発信することで更なる意識向上を図ることが望ましい。</p> <p>○町田市シティプロモーションサイトで、LGBTQ当事者インタビューした記事を掲載したことにより、当事者団体などから良い評価を得ることができたのは大きな成果と言える。</p> <p>○町田市パートナーシップ制度制度について、一時的なブームのような感もあり、今後社会に定着させていくには理解促進に向けた取り組みを継続していく必要がある。</p> <p>○チラシやリーフレット、研修などのあらゆる手段で意識の浸透を図る際に、具体例を交えるなどより深く理解してもらえるような工夫を凝らして欲しい。</p> <p>○「他人事」と捉えがちなLGBTQへの問題が自分ごととして捉えられるように更なる普及啓発を期待する。</p> <p>○心と体の健康支援における普及啓発では、ポスター掲示やチラシ設置、動画配信など多様な手段で周知している。引き続き、さらなる団体との連携やソーシャルメディアを活用し継続的に実施すべきである。</p> <p>○フリースクールに対しても、取組みを広げるべきと考える。</p> <p>○乳がんの啓発月間である「ピンクリボン月間（10月）」に市庁舎のライトアップやデジタルサイネージの活用など積極的な普及啓発を実施したことは効果的であり、今後の継続的な取組みを期待したい。</p>			

めざすべき姿Ⅰ 一人ひとりの人権を尊重するまち  
基本目標2 配偶者等からのあらゆる暴力の根絶

評価対象年度	総合評価	基本施策ごとの評価	
2024	C	I-2-1 配偶者等からの暴力の防止と早期発見	C
		I-2-2 配偶者等からの暴力による被害者への支援	C
		I-2-3 ハラスメントやその他暴力への対策	C
評価理由及び改善策等の提言			
<p>配偶者等からの暴力の防止と早期発見については、意識啓発の取り組みについて、市職員だけではなく、広く市民に向けて様々な機会をとらえて創意工夫をし、積極的に取り組んでいることを評価する。さらに、新たに高校にて講座が行われ、子ども世代へ周知・啓発活動が行われている。引き続き、周知状況（周知度）を確認し、周知・啓発活動の手法の最適化に取り組んで欲しい。</p> <p>配偶者等からの暴力による被害者への支援については、各部署がそれぞれ取り組みを行っており、状況に応じた体制ができている。また、他部署の相談員同士による情報交換会が実施され、被害者の安全確保への対応が行われている。今後も関係部署との連携強化や、潜在化している要支援者を適切な支援に早期につなげることができるよう継続的に取り組むほか、デジタル技術を活用した相談体制も構築して欲しい。</p> <p>ハラスメントやその他暴力への対策については、ペDESTリアンデッキ内のデジタルサイネージやYouTubeにおいて動画を放映する等、周知・啓発活動が行われている。また、警察や大学との協働した取り組みに広がりが出てきている。今後も色々な媒体を活用した周知・啓発活動に取り組むとともに、多くのプラットフォームを積極的に巻き込むなど、取り組みのすそ野を広げて欲しい。</p>			
その他委員コメント			
<p>○価値観の形成段階にある若年層へのアプローチは、DV防止の意識醸成を社会に浸透させるために意義深く、今後も確実に取り組みを進めてもらいたい。</p> <p>○取り組み内容は前年度とほぼ同様なるも、支援を必要とする方の負担軽減のためのプロセスの見直しや、若いうちからの意識啓発に力を入れるなど、取り組みの深度化が図られている。</p> <p>○配偶者等からの暴力による被害者への支援について、各種デジタルデバイス等を活用した「いつでも、どこでも」気軽に情報にアクセス出来き、リアルタイムで問い合わせ、相談対応ができるシステムの構築等も検討されたい。</p> <p>○情報共有を行いながら、当事者が安心して暮らせるよう努めてほしい。</p>			

めざすべき姿Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち  
基本目標1 雇用や職業等の場における男女平等参画の推進

評価対象年度	総合評価	基本施策ごとの評価	
2024	C	Ⅱ-1-1 多様で柔軟な働き方を選べる環境整備への支援	C
		Ⅱ-1-2 女性の活躍推進に向けた取り組みへの支援	C
評価理由及び改善策等の提言			
<p>多様で柔軟な働き方を選べる環境整備への支援については、ワーク・ライフ・バランス、育児休暇、介護休暇等に関する情報を市民向けに発信したことや、制度の紹介を行ったこと、街頭労働相談や子育て支援講座の実施の取り組みは評価できる。「町田市仕事と家庭の両立推進企業賞」の応募について、社会保険労務士会や金融機関など事業所の取組を理解している他機関の協力を模索し、他薦を増やす仕組みが必要である。今後は、ワーク・ライフ・バランスや各種休暇制度の認知状況や男性の育児や家事への参加状況を把握した取り組みを検討してほしい。また、男性の育児参加に関し、より多くの事業者にも効果的に情報を届ける方法を模索してほしい。</p> <p>女性の活躍推進に向けた取り組みへの支援については、女性の悩みごと相談の実施日を他市と比較し多く設定し、対面での面接相談や法律相談を取り入れていた相談しやすい体制を構築していることは評価できる。また、女性向けの就職準備セミナー等については、今後も実施回数を増やすなど充実に努めてほしい。今後は、福利厚生を含めどのような職場づくりが活躍する女性の雇用確保につながり、従業員不足の解消、企業の発展につながっていくかを周知啓発していくことが必要である。</p>			
その他委員コメント			
<p>○「お父さんのための離乳食講習会」で子育て支援に関する情報を発信したことも、男性の育児参加を促進するための重要なステップであり評価できる。</p> <p>○どちらの基本施策についても制度の周知など地道な取り組みについては評価できるが、成果が不透明である。</p> <p>○事業者としても将来の人材を確保するため職場環境の整備に取り組んでいる。行政としてどのような支援ができるかについては、より事業者の声を反映した取り組みを検討する必要がある。</p> <p>○「就労サポートまちだ」での就職支援の実績は、100名の方の就労を支援したナビゲーターの支援力は評価できます。ただ、生活保護受給者等の数からすると支援数が少ないと思う。就労に向けて支援数を拡大させる工夫をしてほしい。</p> <p>○昨年度の取り組みと同様であるが、一般入札の総合評価方式において、「仕事と家庭の両立推進企業賞」を加算項目にしていることで施策の推進に繋がるかは懐疑的である。</p>			

めざすべき姿Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち  
基本目標2 仕事と家庭生活の調和に向けた育児・介護の支援

評価対象年度	総合評価	基本施策ごとの評価	
2024	B	Ⅱ-2-1 子育てに対する支援	B
		Ⅱ-2-2 介護に対する支援	C
評価理由及び改善策等の提言			
<p>子育てに対する支援については、妊婦面接、新生児訪問、両親学級・母親学級などの充実、保育相談に対する対応、学童保育クラブの全入制度の継続、病後児保育やショートステイの拡充、相談事業の周知強化など、妊娠から子育てに至るまでの間をしっかりとサポートする取り組みがそれぞれ推進され、多角的な支援体制が構築されている。また、認可保育所1園の開所、「未就園児預かり推進事業」の前倒し実施など、市民が保育サービスを楽しむ機会が拡充され、さらに第5次計画で新たに取り入れた「男性の子育て参画促進」の取組について、男性を対象とした講座等を複数の部署が実施し、実際に男性の参加者が多かったことは評価できる。一方で、男性の参加が限定的であることから、積極的に参加してもらえるような工夫が引き続き必要である。YouTubeを活用した「保育園の選び方講座」の動画配信や、LINEによる両親学級・母親学級の申し込み開始など、デジタル技術を活用した支援の取組も評価できる。今後も、提供するサービスの充実と、サービスを提供する側への支援に取り組むとともに、ニーズに合った取り組みを充実させ、さらなるサービスの向上につなげてほしい。</p> <p>介護に対する支援については、介護保険制度の周知や、研修・勉強会の実施により適切な介護サービスを行っていることは評価できる。高齢者やご家族へどのように情報が届いているのかを把握し、取り組みに生かされると良い。引き続き、社会状況の変化に応じて市民の声を聞き、ニーズに即した事業を工夫しながら、適切な介護サービスを提供すると共に、必要な方に必要な情報が届き適切なサービスが受けられるように、さらに家族の介護負担の軽減が図られるよう取り組みを進めてほしい。</p>			
その他委員コメント			
<p>○全体的に、事業のターゲット、年齢層、ニーズなどに合った取り組みを進められている。</p> <p>○他部署との連携により取り組みの幅が広がることでより効果が期待できる。</p> <p>○両親学級や母親学級、各種講座は、予約方法の変更や講座内容の見直しなどを行った結果、参加者の増加につながっている。</p> <p>○アンケート結果、前年度比較などからも、取り組みが効果的であることがわかる。</p> <p>○子育てや女性の悩みごと相談件数は減少傾向にあるが、相談内容の把握は支援策を検討する上で重要であることから、着実な対応の継続を望む。</p> <p>○適切な介護サービスの提供による家族介護者の負担軽減においては、実施した研修や勉強会などがどのようにサービスに結び付いたかなどがわかるとなお良い。</p> <p>○介護に対する支援について、前年度と変更がない項目が多い点で、少し物足りなさを感じる。より適切な介護サービスの利用に向けて、工夫しながら進めてほしい。</p> <p>○一人ひとりにあったプッシュ型の情報提供やオンラインでの勉強会なども視野に新たな仕組みを検討してほしい。</p>			

めざすべき姿Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち  
基本目標3 あらゆる分野における男女平等参画の推進

評価対象年度	総合評価	基本施策ごとの評価	
2024	C	Ⅱ-3-1 政策・方針決定過程への男女平等参画の推進	C
		Ⅱ-3-2 男女がともに参画する地域社会づくり	C
評価理由及び改善策等の提言			
<p>政策・方針決定過程への男女平等参画の推進については、市役所の附属機関等の女性委員比率を上げるため、女性委員の積極的任用に向けた男女構成比の公表や、関係団体への通知の実施等、意識づけは着実に進んでいる。各委員会におけるテーマや有識者の偏りがあるため、偏りなく構成されるのは難しい点もあるが、各委員会等がそれぞれに女性登用の必要性や有効性、視点を意識することで長期的に効果が出ると思う。市職員の女性管理職比率向上の取り組みの中で、女性のロールモデルの周知、座談会・グループワークを開催したことは、女性のキャリアプランを考える上で有効な取り組みである。一方で、各取り組みの結果、女性管理職が増加したのか、また、管理職受験の女性割合がどうだったのか等成果が不明確であるため、今後は成果の部分も言及してほしい。</p> <p>男女がともに参画する地域社会づくりについては、町田市防災WEBポータル開設や、防災講座では女性視点で開催し女性の防災活動への参画の重要性を訴えることができた。「まちカフェ」において活動発表する団体数や、デジタル町内会「いちのいち」の利用団体や利用者数が増加したことによって、地域情報の入手手段が広がり、特にデジタル町内会「いちのいち」導入により今まで地域活動に参加しなかった市民にアプローチできたことは評価できる。今後は、SNSを活用し、限られた市民だけでなく多くの市民にアプローチできる新たなコンテンツが必要である。</p>			
その他委員コメント			
<p>○育児休業経験のある男性職員がパネラーを務める研修は効果的であった。</p> <p>○女性の社会的な活躍には必須となる「男性の育児参加」に関する取り組みは、それぞれが働き方について考える良い機会になった。</p> <p>○防災活動について、情報発信が効果的である防災アンバサダーに女性が参画していることをもっとアピールしても良い。</p> <p>○町内会・自治会、事業者などによる地域活動は、より多くの方に活動を知っていただくことで担い手の増加に繋がるため、今後も引き続き、デジタル町内会「いちのいち」利用者増加の取組を進めてもらいたい。</p> <p>○防災に関する取り組みは、地域社会づくりにおいて重要なテーマであり、自分事として女性の参画が増えることは新たな気づきやアイデア等、自助・共助に必要なスキルアップにつながることを期待する。</p>			

・進捗状況評価結果一覧（案）

めざすべき姿	基本目標	総合評価					基本施策	基本施策ごとの評価					2024 総評（抜粋）
		2022	2023	2024	2025	2026		2022	2023	2024	2025	2026	
Ⅰ 一人ひとりの人権を尊重するまち	1. お互いを尊重し合う意識の醸成	C	C	C	/	/	1 男女平等参画に関する市民意識の向上	C	C	C	/	/	多様な情報ツールで意識啓発を行い、市民ニーズに応じた情報発信ができています。学校でのタブレットなども活用して情報にアクセスしやすくする工夫が必要。
							2 多様性を尊重する意識の浸透	C	C	C	/	/	ターゲット層に応じた意識浸透が図れている。職員研修での多様性理解を小中学校へ広げ、教員や児童生徒への啓発活動を強化することが望まれる。
							3 心と体の健康支援	C	C	C	/	/	若い世代向けに講演会や動画、がん検診の個別通知により受診者の増加などが図れている。今後も適切な情報提供とDXを活用した検査体制などを整備して欲しい。
	2. 配偶者等からのあらゆる暴力の根絶	C	C	C	/	/	1 配偶者等からの暴力の防止と早期発見	C	C	C	/	/	市民向けの意識啓発にも創意工夫がみられる。高校での講座も開始され、若い世代への周知が進んでいる。今後も周知度を確認し、手法の最適化を図って欲しい。
							2 配偶者等からの暴力による被害者への支援	C	C	C	/	/	各部署が適切な体制で取り組み、情報交換会で被害者の安全確保への対応が協議されている。今後も連携を強化し、潜在的支援者の早期支援につなげて欲しい。
							3 ハラスメントやその他暴力への対策	C	C	C	/	/	ベデストリアンデッキやYouTubeでの動画放映により周知活動が進み、警察や大学との協働も拡大している。今後も多様な媒体とプラットフォームを活用し、取り組みをさらに広げていくことを期待する。
Ⅱ 一人ひとりが個性と能力を生かして活躍できるまち	1. 雇用や職業等の場における男女平等参画の推進	C	C	C	/	/	1 多様で柔軟な働き方を選べる環境整備への支援	C	C	C	/	/	市民向けにワーク・ライフ・バランスや休暇制度情報を発信し、相談や講座を実施できている。今後、各取り組みの認知状況を把握し、男性の育児参加促進に効果的な情報提供方法を検討してほしい。
							2 女性の活躍推進に向けた取り組みへの支援	B	C	C	/	/	女性相談の実施日を多く設定した相談しやすい体制は評価できる。今後は女性雇用確保と企業発展につながる職場づくりの周知啓発が必要。
	2. 仕事と家庭生活の調和に向けた育児・介護の支援	B	B	B	/	/	1 子育てに対する支援	B	B	B	/	/	妊娠から子育てまでの多角的支援体制が構築されており、また男性の子育て参画促進やデジタル技術活用も評価できる。今後もサービス充実とニーズに合った取組を進めてほしい。
							2 介護に対する支援	C	C	C	/	/	介護保険制度の周知と研修による適切な介護サービスの提供は評価できる。引き続き、社会状況に応じた市民の声を反映し、ニーズに合った介護サービス提供と負担軽減に努めてほしい。
	3. あらゆる分野における男女平等参画の推進	C	C	C	/	/	1 政策・方針決定過程への男女平等参画の推進	C	C	C	/	/	市の附属機関等の女性委員比率向上に努めた結果、意識づけは着実に進んでいる。女性管理職比率向上のための座談会等是有効であり、今後は具体的な成果への言及が求められる。
							2 男女がともに参画する地域社会づくり	C	C	C	/	/	防災WEBポータルや女性視点の講座により、防災への女性の参画促進は評価できる。「いちのいち」は、今まで地域活動に参加しなかった市民にアプローチできており、今後はSNS活用でより幅広い市民へのアプローチが必要。

- A…十分な推進がみられる、大きな成果が出ている
- B…創意工夫が成果につながるなど、順調に推進している
- C…概ね予定どおり推進している
- D…十分に取り組むことができていない、成果がみえない